



# みかん

樹上選果は摘果の中でも難易度が高い作業です

果樹林産センター  
杉本 悠太郎



## 《樹上選果》

樹上選果は、商品価値の低い果実（病害虫被害果やキズ果、粗皮果等の外觀不良果と規格外の大きさの果実）を摘果します。天成り果等の果梗枝が太い果実は果梗枝ごとハサミで間引いてください。

県栽培原単位では、収穫の臨時雇用労賃が約5万円/10aとなっております。仮に1haで栽培していると約50万円の経費がかかります。樹上選果を行わず、このうち2割が商品価値のない果実であれば、約10万円が不要な経費となります。また、収穫にかかる日数も少なくなります。樹上選果は、収穫が近づくにつれて、ついこの程度なら成らせても良いだろうと思ってしまうがちですが、収穫コスト削減だけでなく、出荷物の品質も上がり最終的には消費者への信頼へ繋がります。

## 《秋肥》

秋肥は、果実生産により弱った樹の樹勢の回復、耐寒性の向上、翌春の着花量や発芽量の確保を目的に施用します。【表1】

## 《浮皮軽減対策》

今月からできる浮皮軽減対策として、クレント散布があります。炭酸カルシウムを主成分とした新しい浮皮軽減剤で、微粒の炭酸カルシウムが果実表面に薄く附着し、降雨や朝露による水分の乾燥を促進します。着色初期と4〜5分着色期の2回が散布時期です。

【表1】

時期	品種	肥料名	施肥量	備考
10月下旬	早生	粒状固形26号	4袋/10a	—
11月上旬	青島	粒状固形248	3袋/10a	一般土壌
		相配6号	4袋/10a	耕土の浅い園地

## 《病害虫防除》

10月に入っても高温多雨の日が続く場合は、黒点病の防除が必要です。ただし、収穫前30日の使用になるので、農薬の適正使用基準に注意しましょう。秋期のミカンハダニについても、果実品質を著しく低下させるので、徹底防除に努めましょう。また、果樹カメラシの注意報が出ています。園地をよく観察し、発生に注意しましょう。【表2】

【表2】

時期	対象病害虫	薬剤名	倍率	使用基準
10月上旬	黒点病	ペンコゼブ水和剤	600倍	30日〜4回
10月中旬	ミカンハダニ	コロマイトフロアブル	2,000倍	7日〜2回
発生時	カメムシ・ミドリヒメコバイ	ロディー乳剤	1,500倍	7日〜4回